

蒲郡暮らし実感ツアー 「リアルな蒲郡がわかる1日旅。」

第1弾 「海のある暮らしを体験する1日旅」を開催しました！



海ある暮らしを体験する1日旅

11月19日（土）に「リアルな蒲郡がわかる1日旅。」の第1弾として、「海のある暮らしを体験する1日旅」を開催しました。

【10：00～ 集合・開会】

愛知県内や岐阜県にお住まいの蒲郡への移住を検討している1歳～60歳代の男女7名の方が参加されました。

会場には大原義文副市長もかけつけ、開会にあたってご挨拶いただきました。市担当課からは、今回の蒲郡暮らし実感ツアーを実施することになった趣旨、市の概況などを説明して、参加者全員で自己紹介をしました。



ツアーの参加理由としては、「今は山のそばで暮らしているが、海の見える場所での暮らしも検討したいため」、「二拠点生活を検討しているため」、「海のある場で趣味の釣りを満喫したいため」、「働き方改革の中で住環境を大事にした暮らしをしたいため」などの声がありました。

その後、買物、病院、花火大会、競艇場、漁港など紹介しながらバス移動しました。



【10：40～ 自分らしい働き方、暮らし方のお話 ～先輩移住者 齊藤沙織さん～】



＜先輩移住者 齊藤沙織さん＞

- ・岡崎市から夫とその両親と移住
- ・現在、市内で家建て、3世代同居
- ・バランスボールインストラクター

産後ケアでバランスボールに出会い、心も体も元気になるバランスボールを沢山の人の知ってもらうため活動しています。

形原公民館では、まずは全員で簡単なエクササイズを行い、その後、移住体験談をお話いただきました。「歩いてヤマナカ（スーパー）、しまむらなど衣食住が揃い便利です。海も山も楽しめ、ストレスが溜まっている時などは春日浦海岸を見るだけでスッキリするなど、自然の偉大さを感じながら暮らしています。色々と考えましたが、マイナス面が思い浮かばず、両親から意見を聞きました。母から「水は少しカルキ臭があるので飲まないこと」、父からは「ラジオが聞こえない」などの意見がありました。また、友人も近くに住んでいてコミュニティの問題も特にありません。」などと、蒲郡での暮らしの魅力を語っていただきました。

その後、参加者から「形原地区の公共交通機関はどうか？」、「お魚は安いのか？」、「シルバー世代が移住しても問題ないか？」、「市内の各地区で異なる点は？」などの質問に回答しつつ意見交換しました。



【11：50～ 昼食 ～Uターン者 鈴木 芳さん・由美子さん～】

＜先輩移住者 鈴木芳さん、由美子さんご夫婦＞

- ・芳さん：蒲都市出身。由美子さん：大分県出身。
- ・芳さん：大学進学で九州へ。九州で就職、結婚、起業を経て、転職を機にUターン
- ・CHARI-CAFE POTTER を経営。現在は店舗移転に伴い、寿々屋にて臨時営業中

昼食は西浦の「寿々屋」で、西浦漁港で水揚げされたニギスのフライ付キーマカレーをいただきました。また、鈴木寿明蒲郡市長も駆け付け、ツアー参加者へお礼と蒲郡への移住を促す言葉をいただきました。



鈴木芳さんからは「十数年前に九州から U ターン移住しました。新店舗開業に向けて、旧西浦漁協信用部の建物を改修しています。1F に食堂、2F にプライベートサウナ付きの美しい夕日を楽しめるゲストハウスを始める予定です。ここでは、県内で蒲郡が水揚げ9割を占める深海魚の価値を高めたいと考えています。」また、「蒲郡は何でもあり、交通も便利でデメリットがないと感じていますが、空き家が増えてきています。」とお話がありました。

また、パートナーの由美子さんからは、「結婚後に西浦に移り住みました。最初は友達がいなかったが、子どもがきっかけでコミュニティが広がり、子育てしやすい環境だと感じました。」「蒲郡は子どもの習い事も沢山あり、手ごろな価格で受けさせられるので満足しています。」と話していただきました。



【13：00～ 海の魅力と海ある暮らしのお話 ～先輩移住者 山村佳史さん～】

＜先輩移住者 山村佳史さん＞

- ・三重県津市出身
- ・地元市役所で就職後、転職を機に名古屋市→長久手市→岩倉市と移住。
- ・現在は LOVEARTH 代表として夏は SUP インストラクター 冬は木こりとして働いている。

午後は西浦マリーナにある LOVEARTH で海を眺めながら、木材や環境に配慮した材料で作ったサーフボードやパドルを見せてもらい、SUP 体験の紹介をしていただきました。その後、1963 Ocean Lounge 2階に移動して、移住の経緯や LOVEARTH としての現在の活動など紹介していただきました。



「これまで土地に縛られない自由な生き方をしてきました。20歳代は市役所で働き、やりたいことが増えたため、転職して名古屋市へ移住。その後、自然の中で子育てしたいとの思いで長久手市→岩倉市へと移り住みました。岩倉市にいる時に、幡豆や西浦の海と関わりを持ち始めました。また、その頃に蒲郡市主催の移住モニターツアーに参加し、蒲郡の海に魅せられ 2019年に移住してきました。



暮らしを変えるには、時間の流れ・住まい・人を変える必要があります。以前は、良い暮らしとは「良い所に住んで、年に1度は海外旅行に行って、乗りたい車に乗る」というように思っていました。今は自然を感じながら生きることに喜びを感じています。西浦マリーナの支配人の古屋さんに出会い、このマリーナを好きに使って、多くの人と交流できる場を作って欲しいと依頼され、仲間と一緒に店づくりを進めてきました。そして、海で行うスラックラインの日本初のイベントの企画・開催、海で遊ばない子どもが多いことから地元の小中学生にサップ体験など、五感を満たす数々の活動を実施しています。」とお話いただきました。



また、西浦マリーナの支配人の古屋さんにも「西浦マリーナは人材不足であること、夕日が海に落ちる貴重な海岸であること」などを語っていただきました。

最後に、市からは「蒲郡は高潮の心配もなく、津波も渥美半島や三河大島で遮るなど、災害の心配も少ない」などを紹介しました。



【14：30～ 海辺散策】

身近にある海を体感しようと、形原公民館から春日浦の住宅地を通り、春日浦公園、春日浦海岸まで散策しました。春日浦に住む先輩移住者の丸山七枝さんにも同行していただき、一緒に話しながらの散策でした。

春日浦海岸では砂浜でのんびりと海を眺めながら過ごし、海ある暮らしの魅力を体験していただきました。



【15：10～ 暮らしの場の見学】

形原公民館から移動しながら、暮らしに必要な買い物先、病院、学校、公園などを車窓から見学しました。カインズモール、保健医療センター、生命の海科学館、竹島水族館、サンヨネ、蒲郡高校、市民病院など市内各所をガイドして巡りました。

【16：00～ 蒲郡での暮らしを考える座談会】

市役所に戻り、先輩移住者7名も加わり、座談会を開催しました。

最初に1日を振り返って「こんな暮らしをしたい」、「こんな仕事・働き方をしたい」などを発表いただきました。また、先輩移住者からは自己紹介も兼ねて「蒲郡での暮らしの魅力」をお話いただきました。

参加者からは「家の見つけ方は？海の家を見つける方法は？」などの質問があり、先輩移住者から「海から家を探すことで、海の見える家が見つかる」、「地図をもとに地形などを見ながら探す」、「歩いて探す」、「気に入った空き地を見つけ、売地になっていなくても不動産さんに依頼して調査してもらう」などのアドバイスをいただきました。



■海ある暮らしのイメージ

①蒲郡でこんな暮らしをしたい	②こんな仕事・働き方をしたい
海が近いところでゆっくりとした暮らしがしたい	会社勤めではない、自分の考えで価値観も似てる人たちと仕事してみたい。
海をはじめ自然（ネイチャー）に、自然（ナチュラル）に触れる	自然に人に感謝して恩返ししていく
海が近い暮らし	自然が近い所で働けたら。
朝、夕の海を眺めながら、のんびり暮らしたい	「スケッチジャーナリスト」としての仕事をアトリエで続ける。 小さな宿をいつか開けたら…)
自然を感じながら暮らしたい	できることを探したい
魚、海とともに暮らしたい	しません

■座談会の内容

蒲郡での暮らしを考える座談会

《座談会内容》

～先輩移住者が感じる「蒲郡の魅力」～

- ・海で元気をもらえる
- ・みかんに囲まれた暮らし
- ・海、山にすぐに行ける
- ・色々な生活がライトに楽しめる
- ・名古屋、刈谷へも近く、通勤できる
- ・星が綺麗
- ・朝日、夕日も綺麗だが当たり前になっている
- ・食べ物が新鮮
- ・人も少なくストレスフリー
- ・海に近くで散策もできる
- ・イベントも多く、毎週のように開催している
- ・人も近く、みんなが親せきのように仲が良い
- ・子どもを育てやすく、まっすぐ育てている
- ・色々な魅力があるので、老後も楽しみ

～家の見つけ方～

- ・海から家を探すことで、海に見える家は見つかる
- ・地図をもとに地形などを見ながら探す
- ・歩いて探す
- ・気に入った空き地を見つけ、売地になっていなくても不動産さんに依頼して調査してもらう

【16:50～ 閉会】

閉会の言葉を述べ、第1弾の「海のある暮らしを体験する1日旅」が終了となりました。最後は実感ツアーの参加者、先輩移住者の参加者、市、事務局も含め全員で記念撮影を行いました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた移住者の皆様、ありがとうございました。



以上